

## ． 親との同居選択は、相続期待で高まる

20歳代～50歳代前半までの子ども夫婦が（夫方・妻方の）親との同居を選択する要因について分析を行った。

子ども夫婦側の要因をみると、親からの相続期待の効果について、妻方からの相続を期待している場合は妻方の実家での同居選択確率が高くなり、夫方からの相続を期待している場合は夫方の実家での同居選択確率が高くなるという結果が得られた。（ただし、ここでは単年度のデータしか用いていないため、最初から相続を期待して、同居を始めたのか、逆に同居し、親の世話をすることで相続をうける期待が膨らんだか、その因果関係は確認できない。）

この他、夫の所得が高い場合、双方の親との同居を選択していない確率が高い結果となった。また、夫が自営者、もしくは家族従業員として働いている場合、夫の実家で同居する確率が高くなった。都市規模による影響をみると、（中小規模都市である、その他の市と比べると）14大都市の場合は、夫方の親と同居する確率を下げ、町村の場合は、夫方の親と同居する確率を高める結果となった。町村部では、親、しかも夫の親と暮らす習慣が根強いことがわかった。さらに、夫が長男である場合、夫方の親と同居する確率が高くなり、伝統的な家族規範が残っていることがうかがわれる。また、親側の要因として、親が単身の場合の影響をみると、妻方の親が単身の場合は、妻方の親との同居確率が上がり、一方、夫方の親が単身の場合は、夫方の親との同居確率が上がる結果が得られ、父親か母親のいずれかの親を亡くした場合、残った親を引き取る傾向があることが確認された。

図表 - 1 同居選択の要因分析（2005年）

	被説明変数：妻方の親と同居					被説明変数：夫方の親と同居				
	係数	頑健的標 標準誤差	z	限界効果		係数	頑健的標 標準誤差	z	限界効果	
親 妻方 単身	0.544	0.294	1.85	*	0.031	-0.074	0.231	-0.33		-0.015
親 夫方 単身	0.171	0.286	0.61		-0.001	0.898	0.211	4.40	***	0.144
夫の年収	-0.002	0.001	-3.28	***	-6.96E-05	-0.001	0.000	-4.00	***	-1.68E-04
夫自営業・家族従業員	0.164	0.355	0.50		0.002	0.564	0.238	2.18	**	0.088
親 妻方 からの遺産相続期待	1.932	0.257	7.29	***	0.157	-0.539	0.223	-2.44	**	-0.090
親 夫方 からの遺産相続期待	-1.801	0.374	-4.62	***	-0.096	1.911	0.200	9.19	***	0.310
長女 妻	-0.205	0.265	-0.83		-0.011	0.077	0.194	0.41		0.012
長男 夫	-0.897	0.256	-3.55	***	-0.059	1.160	0.224	5.15	***	0.152
子ども未就学	-0.279	0.288	-1.06		-0.004	-1.319	0.240	-5.15	***	-0.155
結婚費用(夫割合)	0.007	0.005	1.57		3.03E-04	0.002	0.004	0.63		2.50E-04
性比(男性割合)	31.850	12.234	2.72	***	1.546	-7.024	8.789	-0.84		-1.245
14大都市	-0.555	0.309	-1.81	*	-0.018	-0.870	0.253	-3.45	***	-0.101
町村	0.339	0.381	0.87		-1.95E-04	1.285	0.261	5.31	***	0.233
定数項	-16.636	5.932	-2.93	***		1.248	4.253	0.31		
選択確率	0.049					0.168				
Log likelihood						-633.886				
Number of obs						1009				
LR chi2(26)						443.96				
Prob > chi2						0.00				
Pseudo R2						0.2594				

\*\*\*は1%水準、\*\*は5%水準、\*は10%水準で有意であることをさしている。